

学校概要

創立 45 周年	学校長 三橋 国雄	副校長 三村 太郎	学期 2 学期制	児童・生徒数 152 人
学級数 一般級: 6 個別支援級: 2		主な関係校: すずき野中学校 嶮山小学校		

学校教育目標

「すこやかスマイル すずんで考え行動し きょうかし合う すずきっ子」  
 ○自分の考えをもち、互いに学び合う子を育てます。(知)  
 ○自分や友達のよさを認め合い、心豊かな子を育てます。(徳)  
 ○心と体をきたえ、生命を大切にすることを育てます。(体)  
 ○地域を愛し、人とのつながりを大切に共に生きる子を育てます。(公)  
 ○様々な人や出来事に関心をもち、国際社会に視野を広げる子を育てます。(開)

学校の特徴

本校は、創立から現在まで、歯みがきや体力づくりの取組みを行ってきています。週2回の朝の時間を使い、長縄跳び、GOタイム(持久走)、すずき野体操を行ったり、給食後に歯磨きの時間を設定し、6年生の手本に合わせて歯磨きを行ったりしています。毎年行っていた歯科衛生士による歯磨き検査ではAを獲得する児童が多くなります。心身ともに健康な子どもの育成を基盤とし、自分で考える力や自分を表現する力をもった子どもを育てるため、基礎的・基本的な学習を身に付けさせることが大切だと考えています。そのため、5年前の美しが丘西小学校開校にともない学校は小規模化しましたが、この健康教育への取り組みは継続していくことが大切だと思います。またもう一つの特色として小規模化したことの利点として1～6年生での縦割り活動の充実を図り、落ち着いた人間関係を構築し安心できる学校生活が送れるようになっていきたいと思います。

学校経営中期取組目標

<活力と魅力ある学校づくりをめざします>  
 ○より豊かに力強く生きる子どもの育成をめざし、健康教育の推進・充実に努めます。  
 ○各教科等の基礎・基本的な内容を身に付けさせ、体験的な学習を通して、自ら課題解決できる力を育てます。  
 ○自分の考えを進んで表現できる子どもの育成をめざし、国語力の向上やコミュニケーション能力の向上に努めます。  
 ○縦割り活動を柱とし、思いやりをもった子の育成をめざして、道徳・人権など、心の教育の充実を図ります。

小中一貫教育の取組

すずき野中学校あざみ野中学校	ブロック	: すずき野中・あざみ野中・すずき野小・嶮山小・荏子田小・黒須田小・あざみ野第一小・あざみ野第二小
9年間で育てる子ども像	人のつながりを大切にする子～地域を愛し、あいさつできる子～	
自校の具体的取組	○小中学校間で学習指導や生活指導の円滑な接続を大切にするとともに、小中教職員の交流を図ることによって子ども達に必要な資質・能力を育てていきます。 ○縦割りのなかよしグループによる「あいさつリレー」を計画し、教職員と子どもたちに進んで挨拶をする良さをしっかりとらえさせます。 ○地域行事に積極的に参加できるように子どもたちに呼びかけ、近隣の学校との交流が図れるようにします。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	・学習タイムや読書タイムの取組みを継続して行い、言語力や学力向上を図ります。 ・34年生の算数は少人数で行い、基礎基本の定着を図ります。	・毎週木曜日の朝の学習タイムや読書タイムなども利用し、個に応じた指導の充実を図り、実践的・体験的な学習を取り入れたり、学習の系統性を生かしたりします。子どもにとって分かりやすい、魅力ある授業で、基礎基本をしっかり身に付け知識・理解、思考力、判断力、表現力を育成します。・34年算数で少人数指導を実施します。
豊かな心	<small>「道徳」の重点研究を行い、自己の考えを深める道徳の授業について研究します。 全学年のたてわり活動を通して、相手のことを考え、行動できる子を育てます。 幼少小の交流や体験学習、福祉教育などを通して生きる力を育てます。 挨拶リレーを実施し豊かな心身を育てます。</small>	・道徳の授業研究を通じ、学習過程の中でどのような点に留意したり、手立てを工夫したりすることが子どもたちの自己の考えを深めていけるか研究し、充実した心の教育を目指します。 ・全校で縦割り活動を年間を通して系統的に実施し、推進することで、相手のことを考え、行動できる子どもを育成します。 ・様々ななかかわりの中で、人格形成や生きる力を発達段階に応じて身に付けていく指導を行います。
健やかな体	・健康タイム、歯磨き、良い姿勢について、年間を通してめあてをもたせ、意欲的に取り組めるようにします。	・体力の向上をめざし、一人ひとりのめあてを明確にさせ、長縄やGOタイムに意欲的に取り組めるようにします。 ・日常的なバクバク日より給食週間の取組みで食への関心を高めます。 ・年間を通し歯磨き、良い姿勢、挨拶に取り組む心身ともに健やかな子どもを育てます。
特別支援教育	・個別の支援計画作成やケース会議の設定等により、個に応じた指導の共有を図ります。 ・学校便り、学校説明会などで保護者にも伝えるようにします。	・特別な支援を必要とする子ども一人ひとりについて、特別支援教育コーディネーターを中心に職員との共通理解を図り、学校生活の様々な場面でそれぞれの子どもの特性や状態に応じた指導が行えるようにします。 ・地域療育センターあおばとの連携を深め、各学級の事態に応じた専門的な支援が得られるようにします。
児童生徒指導	・「学校のきまり」を配付し、教室にも掲示することで、共通理解と生活習慣の徹底を図ります。 ・生活目標などを意識した生活ができるようになります。	・全職員で児童理解に努め、あたたかい信頼関係の中「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる児童の育成をします。 ・昨年度見直したスタンダードについて教職員での共通理解を確認し、学校、学級、家庭でぶれない指導ができるように声を掛け合って指導に当たります。
地域連携	・行事、学習を通して地域の方と関わる機会をもち、地域連携を図ります。 ・地域行事に参加し、相互の関係を築いていきます。	・生活科や総合的な学習の時間で、地域の財を利用した学習を進めるようにします。 ・地域交流会や地域防災訓練、地域行事への子どもの参加を推奨し、子どもの成長への支援を地域との協働化で進める中で、地域に見守られた、あたたかな学校づくりを推進していきます。
いじめへの対応	・児童一人ひとりの心理や特性を見出す児童理解に努めます。また道徳教育、人権教育の充実を図ります。	・児童の心の動きをとらえるため、スクールカウンセラーと教職員の連携をしっかりとれるように時間的な確保をしっかりとしながら進めていきます。 ・道徳の学習で、子どもたちに自己を見つめ、より多角的に・多面的にとらえ、自らの考える力をはぐくむ学習ができるよう指導に当たります。

人材育成・組織運営	・重点研究、メンター研その他の研修で、授業力などの力量向上を図ります。 ・ブロック研などで、他の日常的な情報・意見交換を行い、チーム力を高めます。	・重点研では外部講師から指導を受け、子供の成長を第一に教職員の教育的視野を広げます。 ・児童指導、いじめへの対応などの研修を計画的に行い、学校の危機管理体制が充実し教職員の力量を向上させます。 ・メンター研の充実を図り、授業実践を主にした研修を行い、教職員も相互に学び合い授業力を高めています。 ・情報交換、意見交換が日常的に行われ、組織の効果的な運営が機能的に動き、工夫できるようにします。
担当	教務部会	